

# 加 佐

学校だより 7月号

令和6年7月1日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



## 地域を学ぶ 地域に学ぶ



加佐校区の小中学校は、これまでから「地域資源の活用、人材との連携活動」「地域に向いた体験学習」が豊富にあり、まさに「地域と共に歩む学校」が自慢です。（京都府の会議に参加すると、都市化・住宅化が進む地域の学校から褒めてもらえます。）今年さらには「加佐地域の歴史や地理的特徴、地域の産業について深く学ぶ」ことに重点を置いて「総合的な学習の時間」カリキュラムのモデルチェンジを進めています。

すでにご協力いただいた事業所様や団体・個人様にはお礼を申し上げます。今後ご協力を願いたい方々に、アイデアや計画をお伝えしているところです。子どもたちは「校区内にコンビニがありません！」と冗談混じりに言いますが、いずれ自然の大切さ・有難みを実感し、「おいしい作物がたくさんあります！誇れるお仕事がたくさんあります！」と名乗れるように育てたい。

少子高齢化はもはや加佐地域だけの問題ではなくなってきました。30年後には、舞鶴市全体が、今の加佐地域と同じくらいの高齢化率になるという試算もあります。（ならば現在の加佐中の教育実践が「これからのスタンダード」になるのでは！とは言いすぎでしょうか。）

憂いや迷いは数々ありますが、今ここに学ぶ子どもたちの教育推進と、ちょっと先の（5年10年先の）学校の在り方を両方眺めながら、毎日をご過ごしています。益々暑くなりますが、子どもたちは元気です。

7月もよろしくお祈りします。

【グランベリーファーム見学】



## ツバメの学校



6月は毎日、初夏の青空に若いツバメたちの「飛行訓練」を眺めながら仕事をしていました。校舎の軒先には歴代の巣がたくさん残っていて、今年も修繕しながら子育てをしたのでしょうか。今は子ツバメが遅く、上昇気流をつかまえたり、急降下してみたりして、まるでジェットコースターを楽しむかのように飛んでいます。不規則な横風にヨロける様子は微笑ましく、さながら中学生と一緒にクラブ活動をしているかのような。

秋になれば、この子たちも南方4000km先の東南アジアへ飛び立っていくのでしょうか。精一杯鍛えて、長旅に耐えられる力をつけてもらいたい。父ちゃんツバメも爺ちゃんツバメも、みんな由里谷の風に育ったのかと思うと学校の歴史を感じます。

ツバメが店先に巣を作れば「商売繁盛」と言われるように、人間とツバメの関係は古く、稲作の歴史にも通ずるそうです。由良川の水の味と風の匂いを頼りに、毎年戻ってくるツバメたちも立派な卒業生！「大空からの応援団」は心強い！

ツバメの写真を載せたくて カメラを向けるも、素早くてまったく追いつかず。。

動物カメラマンの腕前に感心しきり。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬

教職員一同